



2022年7月11日

会社名 窪田製薬ホールディングス株式会社
代表者名 代表執行役会長、社長兼最高経営責任者
窪田 良
コード番号 4596 東証グロース
問合せ先 広報・IR 部
(TEL : 03-6550-8928 (代表))

第18回国際近視学会にて「クボタメガネテクノロジー」発表のお知らせ

窪田製薬ホールディングス株式会社（本社：東京都千代田区、以下「当社」）は、当社の代表執行役会長、社長兼最高経営責任者であり、当社の100%子会社のクボタビジョン・インク（本社：米国ワシントン州）の会長、社長兼最高経営責任者である窪田良博士が、第18回国際近視学会「The 18th International Myopia Conference」（以下、「IMC2022」）において「クボタメガネテクノロジー」に関する発表をすることが決まりましたことをお知らせいたします。

IMCは、世界中の近視の予防と制御に取り組むすべての専門家やプロフェッショナルが集まる場であり、2019年に開催された第17回大会は東京で開催されました。2022年のIMCは、9月4日～7日にオランダ・ロッテルダムで開催され、世界的に蔓延する近視とその視力低下の可能性に関する研究に焦点を当てる予定です。

窪田博士は、"Biometric changes associated with active stimulation of peripheral retina with myopically defocused images in humans"と題して講演を行います。当社は、光刺激直後の軸長や脈絡膜厚に対する一過性の影響と、長期的な眼の変化の両方をモニターするために、複数の画像投影プラットフォームを用いて、若年成人や小児を対象とした多くの研究を実施しました。これらの初期結果は、近視性デフォーカスされた仮想画像を網膜周辺に投影することによる生理学的効果や、近視進行抑制のためにこの種の治療を行うための装置の有効性に関する今後の研究の基礎となることは明らかであり、この分野における当社のこれまでの研究のレビューを発表する予定です。

近視人口は、世界でも急速に増加しており、子供の視覚障害の主な原因となっています。2020年のデータでは、推定26億人（世界人口の34%）が近視であり、そのうち3億9900万人（5.2%）が強度近視であると言われていています。また、2050年には、世界の人口の50%が近視、10%が強度近視になると予測されており、近視が永久的な失明原因の第一位になると予測されています。^{*1}

本件について、窪田博士は次のようにコメントしています。

「世界的な近視学会で当社の技術を発表できることを嬉しく思います。近視の理解と治療法の向上を目指す世界中の研究者に、私たちの研究を共有できることを楽しみにしています。」

^{*1} Holden BA, Fricke TR, Wilson DA, et al. Global Prevalence of Myopia and High Myopia and Temporal Trends from



2000 through 2050. Ophthalmology. Volume 123, Number 5, May 2016.

クボタメガネテクノロジーについて

クボタメガネテクノロジーは、網膜に人工的な光刺激を与えて近視の進行の抑制、治療を目指す当社独自のアクティブステミュレーション技術です。網膜に光刺激を与えて近視の進行の抑制、治療を目指す技術は既に実用化されており、米国では CooperVision 社の「MiSight®1day」という製品が近視抑制効果があるとして米国食品医薬品局 (FDA) より認可を受け、販売されています。この製品は、多焦点コンタクトレンズの仕組みを応用し、自然光をぼかして網膜周辺部に刺激を与えることで、一般的な単焦点コンタクトレンズと比較して近視の進行を抑制することを証明したコンタクトレンズです。一方、当社グループの「クボタメガネテクノロジー」は、この理論的根拠をもとにナノテクノロジーを駆使してメガネに投影装置を組み込むことで、自然光をぼかすことなく、直接一番効果的な映像を網膜周辺部に投影することを実現し、先行品よりも短時間の使用でより自然な見え方を維持しながら、高い近視抑制効果を実現することを目指しています。

窪田製薬ホールディングス株式会社について

当社は、世界中で眼疾患に悩む皆さまの視力維持と回復に貢献することを目的に、イノベーションをさまざまな医薬品・医療機器の開発及び実用化に繋げる眼科医療ソリューション・カンパニーです。当社 100%子会社のクボタビジョン・インク (米国) が研究開発の拠点となり、革新的な治療薬・医療技術の探索及び開発に取り組んでいます。当社独自の視覚サイクルモジュレーション技術に基づく「エミクススタト塩酸塩」においては、糖尿病網膜症およびスターガルト病への適応を目指し研究を進めております。また、在宅・遠隔医療分野 (モバイルヘルス) における医療モニタリングデバイス (PBOS)、ウェアラブル近視デバイスの研究開発も手掛けております。(ホームページアドレス: <https://www.kubotaholdings.co.jp>)

免責事項

本資料は関係情報の開示のみを目的として作成されたものであり、有価証券の取得または売付けの勧誘または申込みを構成するものではありません。本資料は、正確性を期すべく慎重に作成されていますが、完全性を保証するものではありません。また本資料の作成にあたり、当社に入手可能な第三者情報に依拠しておりますが、かかる第三者情報の実際の正確性および完全性について、当社が表明・保証するものではありません。当社は、本資料の記述に依拠したことにより生じる損害について一切の責任を負いません。本資料の情報は、事前の通知なく変更される可能性があります。本資料には将来予想に関する見通し情報が含まれます。これらの記述は、現在の見込、予測およびリスクを伴う想定(一般的な経済状況および業界または市場の状況を含みますがこれらに限定されません)に基づいており、実際の業績とは大きく異なる可能性があります。今後、新たな情報、将来の事象の発生またはその他いかなる理由があっても、当社は本資料の将来に関する記述を更新または修正する義務を負うものではありません。